

所報むろと

第31号

—平成29年度 事業報告—



独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立室戸青少年自然の家

— National MUROTO Youth Outdoor Learning Center —

巻頭言

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家所長
戸部 信幸

この度、平成29年度に実施した事業の報告「所報むろと」2018（第31号）を刊行いたしましたので、是非とも御高覧いただき、ご意見や御助言を賜りましたら幸いです。

さて、幼稚園教育要領や小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領が改正され幼稚園要領が平成30年度から施行されます。また、小学校・中学校においても移行期間となり一部新学習指導要領での教育課程が実施されています。

このため、国立青少年教育振興機構においても学習指導要領改訂に対応した集団宿泊活動サポートガイドの出版や教科等に関連付けた体験活動プログラム作成研修会を実施しました。研修会では、青少年自然の家や青少年交流の家における自然体験活動プログラムの学習指導案の作成に取り組んでおります。当所では、シーカヤックを体育科に関連付けた学習指導案の作成に取り組んでまいりました。今後は、他の活動プログラムも教科等に関連付けた体験活動プログラムの学習指導案の作成にも取り組んでまいりたいと思います。

平成29年度の事業実施等に当たっては、指導員、ボランティアの皆様には多くの支えをいただき計画を達成することが出来ました。心よりお礼申し上げます。

これからも、皆様の一層のご支援・ご協力をいただけますようお願いいたします。

目 次

平成29年度事業報告

教育事業

●自然体験活動指導者養成研修 (NEAL リーダー) 兼ボランティア養成講座	— 1
●体験！発見！ジオパーク（夏編）	— 3
●体験！発見！ジオパーク（防災編）	— 5
●体験！発見！ジオパーク（秋編）	— 7
●野遊び塾	— 9
●新茶の香り！家族で茶つみ！手もみ製茶体験	— 11
●むろとでチャレンジ「3・4年生宿泊体験①②」	— 13
●日本列島ともだちの輪（夏編）	— 15
●森のようちえんむろと	— 18
●日本列島ともだちの輪（冬編）	— 20
●教員免許状更新講習	— 23
●おもしろ理科工作（親子編）	— 27
●ふれあい通学合宿	— 29
●ともだち！100人キャンプ	— 33
●遊びを中心とした幼児期の運動プログラム	— 35

むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業

●サトウキビ畑の手入れをしよう	— 37
●むろとでチャレンジ「鯨舟競漕にチャレンジ」	— 39
●キッズデイ「親子でスノーケリング」	— 41
●キッズデイ「夏を楽しもう」	— 43
●キッズデイ「ちょっと早めのクリスマス」	— 45
●サトウキビの収穫をしよう	— 47

管理運営報告	— 49
--------	------

広報活動	— 53
------	------

利用実績	— 54
------	------

自然体験活動指導者養成研修(NEALリーダー) 兼 ボランティア養成講座

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子どもたちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義を通して学ぶことにより、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる指導者の育成を図る。

○ 実施期間

平成29年4月22日(土)～平成29年4月23日(日) 1泊2日

平成29年5月13日(土)～平成29年5月14日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(参加人数)

自然体験活動を指導する意思のある高校生以上の者 59名(ボランティア養成講座)

19名(自然体験活動指導者養成研修)

○ 活動プログラム

4月22日(土)	11:00 開講式 ボランティア活動の意義 自然体験活動の技術①(野外炊事) 青少年教育施設におけるボランティア 21:00 活動終了 夕食(野外炊事)
4月23日(日)	9:30 自然体験活動の安全管理 青少年教育施設における現状と運営 青少年教育における体験活動 まとめ・事務手続き説明 16:00 終了 朝食・昼食
5月13日(土)	9:30 前回のふりかえり 自然体験活動の指導 自然体験活動の技術② 青少年教育における体験活動体験活動について語ろう 21:00 活動終了 昼食・夕食
5月14日(日)	9:00 対象者理解 10:30 アクションプランをつくろう 講習のまとめ 筆記試験 事務手続き説明 15:30 終了 朝食・昼食

2. 活動の様子

<4月22日、23日>

法人ボランティア統一カリキュラムに則って13時間の講習を行った。「青少年教育施設におけるボランティア」では高知県立青少年センターの廣見氏をアドバイザーに講義を行った。自然体験活動の技術では野外炊事とキャンプファイアを題材に演習・講義を行った。また、自然体験活動の安全管理では室戸消防署署員が講師となり、普通救命講習(I)を実施した。大学の新生オリエンテーションにて事業の告知を行った成果があり、多くの大学生の参



加があったほか、過去の事業の参加者であった高校生の受講もあった。

<5月13日、14日>

後半の日程で NEAL リーダー登録に必要な講義・演習を実施した。絆創工房代表の松野陽平氏を講師に迎え、森の活動を題材に自然体験活動の技術、自然体験活動の指導を担当していただいた。また、カリキュラム外のコマとして興味別選択プログラム「語り de ナイト」を設定した。焚火を囲みながら、参加者が様々なテーマを語り合うセッションとしたが、それぞれの原体験を披歴しあったり、悩みや思いを共有する場となった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

(ボラ養成講座)

- ・「体験」を通して学ぶことで楽しみながら活動することができた。
- ・自分がボランタリーリーダーになる自覚を持った。

(NEAL 研修)

- ・子どもたちと関わる活動をする前に自分に足りないものが何か気付けた。

- ・自然体験のリーダーとしての気持ちのあり方について考えることができました。

○ 事業の成果

限られた時間数のなかであったが、体験を重視し、講義で内容理解を深める組み立てを行ったことで、参加者から高い満足度を得られた。参加者の受講意欲も高く、今後、法人ボランティアや NEAL リーダーとして活躍されることが期待できる。

当施設との申し合わせにより、法人ボランティアのカリキュラムに沿った講習を受講した者は高知県立青少年センターでの養成講習を免除される取り決めがなされたことから、公立施設への活動の場が広がっている。

○ 事業の課題

主対象となる大学生の大学行事や集中実習との関係で、今年も日程調整に苦慮したがボランティア養成講座、自然体験活動指導者養成研修ともに、一定数の参加者を確保することができた。一方で、開催日以降にボランティアを志す者に対する追加講習や受講者のフォローアップ研修の体制がまだ十分ではないので、次年度以降に体制を構築できればと考える。

体験！発見！ジオパーク(夏編)



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸世界ジオパークの地質や地形、自然を生かした室戸の人々の営みを知ることで、ジオパークの自然に興味関心を高めるとともに、自然の偉大さと人間に与える恵みの大きさを体感することをねらいとする。

○ 実施期間

平成29年8月27日(日)～平成29年8月29日(火) 2泊3日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 16名/25名

○ 活動プログラム

8月27日〔日〕	8月28日〔月〕	8月29日〔火〕
12:00 ジオパークセンター集合 昼食	6:00 起床・洗面・健康観察	6:00 起床・洗面・健康観察
13:00 開講式	7:15 朝のつどい・朝食	7:15 朝のつどい・朝食
13:20 むろと探検の計画を立てよう	8:20 自然の家 発	8:30 退所点検
16:30 ジオパークセンター発	9:00 むろと探検 開始	9:15 むろと探検のまとめ
17:30 タペのつどい 夕食 ベッドメイク	昼食は各自の計画による	12:00 昼食
19:00 入浴	16:45 ジオパークセンター集合	13:00 発表準備
20:30 班会・就寝準備	むろと探検 終了	13:45 むろと探検 発表会
21:30 就寝	17:00 ジオパークセンター発	14:20 アンケート記入
	17:30 タペのつどい・夕食・入浴	14:40 閉講式
	19:30 自然の家 発	15:00 解散
	夜の室戸岬探検	
	21:30 班会・就寝準備	
	22:00 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

室戸特産の青ノリをふんだんに使った冷やしうどんのウエルカムランチの後、開講式を行った。

「むろと探検の計画たてよう」では室戸世界ジオパークセンターの中村専門員から室戸の見どころスポットのレクチャーを受けた



後、各班にわかれて、翌日の行動計画を立てた。特に熱が入っていたのは、昼食に何を食べるかであったが、限られたお小遣いの中からの支出とあって、値段と内容を見比べつつ「室戸らしいお昼ごはん」の条件に合うお店選びに余念がなかった。むろと探検の条件として 1. 移動は自転車、2. 出発地は室戸市内で自由に設定できる。3. 16:30までにジオパークセンターに到着すること、4. 行動中のお小遣い2000円の用途は自由、ただし昼食代を含む。5. 飲料以外の買い物は室戸らしさにこだわること、6. 行動内容はポスターにまとめて発表すること、を提示した。また、各班にはトイデジカメを貸与し、ポスター発表のための画像資料を残せるようにした。

<2日目>

各班が定めた出発地点から、むろと探検をスタートした。計画に沿ってスタートしたが、新しい発見が様々にあり、予定を変更しながら行程をすすめた。吉良川の街並み、鯨館、タコタコ公園の遊具、室戸岬の高岡慎太郎像、天然記念物のアコウの木、タービダイトをはじめとした奇岩群、イルカとふれあえるドルフィンセンター、空海伝説のある御厨人洞、海洋深層水のアクアファーム、室津の古港などを思い思いに自転車で巡っていった。



昼食に人気だったのが室戸名物のキンメ丼であった。また、街のパン屋で焼き立てパンを購入したり、家族へのお土産を物色したりと室戸を満喫したようであった。夜は全員で室戸岬へ向かい、国内で5か所しかない1等灯台である室戸岬灯台を見学した。灯台のレンズから放たれる光を全身に受けた子供からは大きな歓声が上がっていた。

<3日目>

前日の内容をポスターにまとめる作業を行った。トイデジカメの画像もふんだんに使いながら、各班工夫を凝らしたポスターを作製した。自分たちが体験した内容を取捨選択し、班で話し合いながら説明文を作成し、絵やイラストを挿画しながらポスターを仕上げた。発表会では中村専門員からの講評をいただいた。作成したポスターは小学生が考えた室戸観光のモデルプランとして室戸世界ジオパークセンターにて掲示されている。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・室戸のことをいっぱい知れたし室戸全体が室戸世界ジオパークだと気付いた。
- ・友だちをふやせたりむろと市内をまわってうれしかったです。
- ・みんな自分の意見を言いコミュニケーションをとれた。

○ 事業の成果

ボランティアリーダーの適切な指導助言によって、アクティブラーニング形式での事業が実施できた。室戸ジオパークを実体験でき、参加した子供たちが再度、家族や知人を連れて室戸へ足を運んでもらうリピート観光も意識したが、ねらい通り、数家族が室戸を再訪したことが分かっている。

○ 事業の課題

夏休みであったが、平日にかかるとバス送迎場所までの保護者対応が難しいことより、応募人数が伸び悩む。また、今回は意図的に海の活動を行わない夏休みの事業として実施した。この内容であれば、別の時期に実施することも可能であると考えられる。

体験！発見！ジオパーク(防災編)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

現在の小学生が大人になるまでの間に、南海トラフを震源とした巨大地震が高い確率で発生することが予想されている。そのような状況の中で生きていく高知県民として、地震や津波に対して正しい知識を持つことや被害を最小限にとどめるための減災の考え方を身につけておくことは非常に有効である。各方面の専門家から話を聞き、実際の体験を行うことで自分たちにできることを考える機会とする。

○ 実施期間

平成29年10月7日(土)～平成29年10月9日(月) 2泊3日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 17名/20名

○ 活動プログラム

10月7日〔土〕	10月8日〔日〕	10月9日〔月〕
12:00 開講式・昼食	6:30 防災野外炊事1 (カートンドッグ)	7:00 朝食
13:30 学習1 電子基準点見学 学習2 ジオパークセンター見学 学習3 地震の化石見学	9:30 学習4 テトラポッド見学	9:00 学習5 学習のまとめ
17:30 防災食試食体験1 停電体験	11:30 防災食試食体験2 12:30 避難所への移動体験 15:00 防災野外炊事2 (ロケットストーブ) 停電体験	11:00 成果発表 12:00 昼食 13:00 閉講式 解散

2. 活動の様子

<1日目>

開講式と昼食の後、国土地理院や室戸世界ジオパークセンターの専門員に来ていただき、日本は世界の中でも地震が多発する特異な地域であると説明を受けた。特に室戸市はプレートの影響による大地の移動が大きく、電子基準点等の観測機器が他の地域よりも多く設置されていることや、たくさんの研究施設が地震計測を行っていることから、自分たち



の住む地域が地震と密接に関係していることを学んだ。また、地震の化石といわれる砂岩岩脈を見ることで、地震のもつエネルギーの大きさも実感した。夕食は室戸市が普段から自然の家に備蓄しているアルファ化米を試食した。水で一時間戻しただけの簡単な手間で、普段食べている食事とほぼ変わらない食事が作れることに驚いた。日没後は暗闇の中での生活になったため、20時ごろにはレスキューシートに身を包んで眠りについた。

<2日目>

起床予定は6時だったが、空が白み始める5時過ぎに起き出してくる者が多く、起き出した者から耐火レンガを運んで夕食のロケットストーブづくりの準備を行った。6時過ぎにカートンドッグの材料到着を待ちかねて、すぐに調理にかかり、ホットドッグの焦げ目を友達と比べながら楽しく

食べた。その後、荷物をすべてまとめて国土交通省が発注しているテトラポッドの製作現場の見学に出発した。高さ5m重さ80tの巨大テトラポッドを仰ぎ見て、その大きさを実感した。見学後、船に乗り換えて、実際にテトラポッドが使われている消波堤の見学をした。巨大なテトラポッドが波の力でいくつも壊れているのを目にし、自然の力の大きさに驚いていた。巨大な消波堤でも津波の際はひとたまりもなく、津波を止めることはおろか、津波の到達を5分程度遅らせるのが精いっぱいであるとの説明を聞き、貴重な5分間で何をすべきか考えるきっかけとした。昼食は袋ラーメンに直接お湯を注いで食べた。ラーメンの種類によっては味が濃くなりすぎる物もあったが、鍋で煮なくても問題なく食べられることを体験した。食後は、すべての荷物を背負い、距離4km高さ300mの道のりを歩いて、避難所としている自然の家まで1時間30分ほど歩いた。自分が歩いて運べる荷物の量を考え、実際の災害時に何を持って避難すべきなのか考えた。夕食のロケットストーブとハイゼックス炊飯袋を使った野外炊事は、鍋の水がなかなか沸騰せず苦戦した。18時ごろ日が沈み始め、時間切れでご飯が炊けず、レトルトの親子丼だけを食べた班もあった。防災食品やレトルト・インスタント食品に比べ、米等の材料から調理することの労力の大きさや調理時間の長さを実感した。



<3日目>

最終日の朝食は、食堂の食堂で提供された食事を食べた。4食を防災食で過ごしていたため、全員が食欲旺盛で何度もおかわりをしていった。朝食を食べて落ち着いた後、二日間の学習の成果を班ごとにまとめた。室戸市役所防災対策課の職員も来所し、防災について四班の発表を聞いていただいた。四つの班のまとめた成果物は、室戸世界ジオパークセンターと室戸市役所に巡回展示をしていただくことになった。



近い将来発生すると言われている南海トラフ地震ではあるが、私たちの生活時間で考えると発生するのは随分先の事になるかもしれない。今回の事業をきっかけとし、自分の成長や環境の変化に合わせて、その時の自分にできることを常に考えて欲しいと宿題を出して本事業を終了した。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・生きるための工夫がいっぱいあって、自分も工夫しながら防災について考えたい。
- ・きついことや楽しいこと、いろいろあって楽しみながら活動できた。
- ・実際に災害が起きたようリアルな体験ができてよかった。

○ 事業の成果

室戸ジオパーク推進協議会、国土地理院、室戸市役所、(株)轟組等と連携することで、普段見ることや聞くことのできない体験をたくさん取り入れることができた。また、電気を使用しなかったため日没を気にしながらの活動となり、防災意識を高めることにも繋がったように思われる。

○ 事業の課題

好天に恵まれスムーズにプログラムを実施することができた。しかしながら、屋外での活動が多くなるため、雨天時荒天時にねらいを変えることなく代替プログラムにすることは難しい。

体験！発見！ジオパーク(秋編)



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸世界ジオパークの地質や地形、自然を生かした室戸の人々の営みを知ることで、ジオパークの自然に興味関心を高めるとともに、自然の偉大さと人間に与える恵みの大きさを体感することをねらいとする。

○ 実施期間

平成29年11月3日(金)～平成29年11月5日(月) 2泊3日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 35名/36名

○ 活動プログラム

11月3日(金)	11月4日(土)	11月5日(日)
12:00 受付、昼食	6:30 起床、洗面	6:30 起床、洗面、清掃
12:30 開講式	7:30 朝のつどい	退所点検
13:00 クルージング	7:45 朝食	7:30 朝のつどい
14:35 ジオパークセンター見学	8:45 自然の家発	7:45 朝食
15:35 ジオパークセンター発	9:15 釣り活動	9:00 野外炊事
16:05 自然の家着	12:00 自然の家着、昼食	フルーツ寒天試食
オリエンテーション	13:00 室戸の海と漁業について	12:00 学習のまとめ②
17:00 タベのつどい	14:30 干物・フルーツ寒天づく	12:30 成果発表
17:15 夕食	り	13:00 閉講式
18:30 班タイム	17:15 夕食	
20:00 入浴	18:30 学習のまとめ①	
20:45 班会	20:45 入浴	
22:00 就寝	22:00 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

4年生14人、5年生12人、6年生8人の参加者で教育事業「体験！発見！ジオパーク」はスタートした。最初の活動はジオパーク推進協議会専門員の仙頭杏美氏による室戸岬ミニクルージングだった。室戸岬までの往復1時間のクルージングで、室戸ならではの地形である海成段丘や室戸岬灯台、明日の活動のヒントとなる野根海底谷についての説明を聞いた。



波が高く船酔いをする参加者もいたが、海から見る室戸岬の雄大さに感動していたようだ。クルージングの後は室戸世界ジオパークセンターを見学し、南海トラフ巨大地震発生の仕組みや台風に備えた家の作り等のジオパークの楽しみ方について学んだ。

夜は、班タイムとして法人ボランティアによる仲間づくりゲームで楽しんだ。班員同士の自己紹介や全体での仲間集めゲーム、じゃんけんゲーム等をして仲間の絆を深めていった。

<2日目>

朝の活動は室戸岬新港とろむでの釣り活動だった。釣り方やえさの付け方、触ると危険な魚等の説

明の後、それぞれが作った仕掛けを使って釣りを楽しんだ。天気に恵まれたくさんの魚が釣れた。オヤビッチャやトウゴロウイワシ、イスズミ、スズメダイ、アイゴ等の魚が釣れた。「この魚で午後の干物をつくろう。」と話している参加者もいた。



午後は地域の漁師さんである安岡幸男氏から「室戸の海と漁業について」話をしてもらった。室戸の海が有数の漁場であることとその理由や漁法について、漁師という職業の魅力についての内容だった。参加者から何度も質問があり、予定の時間をオーバーした。講義の後は野外炊事場で干物とフルーツ寒天づくりをした。魚がうまきさばけた参加者は笑顔いっぱいだった。また、室戸でとれたテングサを使ってのフルーツ寒天が完成すると、友達とどのような味がするのか話をしていた者もいた。



夜の活動は2日間の活動のまとめをした。明日の活動も加えて成果発表をするため、読む相手を意識しながらまとめていった。

<3日目>

最終日は2日目に作った干物と豚汁がメニューの野外炊事をした。かまど係やごはん係、豚汁係、干物係に分かれて調理した。干物がおいしいという声がたくさん聞こえてきた。何よりもけがなく活動できたことが良かった。最後にまとめとして成果を発表し、室戸ジオパーク推進協議会仙頭杏美専門員より講評をした抱き、3日間の活動は終了した。法人ボランティアや班の友だちと助け合いながら楽しく過ごした3日間だった。疲れた中にも満足感が感じられる参加者の表情が印象に残った。ジオパークの魅力と偉大さを体感した事業だった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・釣った魚が死んでいるのを見て、食べないのに釣った魚をそのままバケツに入れておくのはかわいそうだった。もっと命を大切にしないといけない。
- ・干物の作り方がわかった。最初は包丁が怖かったけれどうまくいった。また作ってみたいと思った。

○ 事業の成果

- ・ジオパーク推進協議会や地元漁師の協力によりジオパークの地形や自然を生かした人々の営みを学ぶことができた。
- ・釣り活動やクルージング等の体験活動を通して海や魚に興味を持ち、地形を生かした漁法についての話を聞くことで、室戸ジオパークについて関心を深めることができた。

○ 事業の課題

- ・活動内容が多く、参加者には時間の余裕がなかった。プログラムを精選し、ゆとりのある活動が提供できるように再考したい。
- ・仲間にとけこむために時間が必要な参加者や仲間と参加した者も多いため、話をする仲間が偏りがちな者もいた。
- ・地域にはまだまだ教材が埋もれている。さらに多くのプログラムが提供できるよう地域の関係機関と連携をさらに深めていきたい。

野遊び塾

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

「親子のための楽しい場づくり」を大切にしながら、「子育て、親育て」の考え方をベースに、子どもが現代社会においても強くしなやかに育っていけるよう、親の子どもとのかかわり方を学ぶ機会として実施する。

○ 実施期間

- ①平成29年4月29日（土）～30日（日）1泊2日
- ②平成29年11月11日（土）～12日（日）1泊2日
- ③平成30年2月3日（土）～4日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

子育て、親育てについて考えてみたい親子（インターネット・ゲームが気になったり不登校傾向など）① 6名／定員無し ②12名／定員無し ③8名／定員無し

○ 活動プログラム

4月29日（土）※1日目	4月30日（日）※2日目
13:00 集合 オリエンテーション	6:00 起床・洗面 健康観察
13:30 野遊びプログラム (4月は林間ハイキング、11月はサツマイモ掘り、2月は基地づくりプログラム)	6:30 朝の散歩（朝日を見に行こう） 7:30 朝食
16:00 野外炊事	9:00 野遊びプログラム (4月はおやつづくり、11月はクラフト、2月はミカン狩り&ジャムづくり)
19:00 たき火&トーキングタイム (この時間に大人は、アドバイザーと子育てトークを行う。子どもはクラフトやたき火を楽しむ)	11:00 昼食（野外炊事）
21:00 就寝	13:00 ふりかえりの会 解散

2. 活動の様子



親子3人での芋ほり



ずっと
火のそばを離れない



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

参加者（小学生）：ゲームがなくても楽しく過ごせました！

参加者（小学生）：たき火をたくさんして楽しかった。

参加者（保護者）：2日間も外で過ごすなんてだいじょうぶかなと思っていましたが、来てみたらあつという間で、そういえば子どものときはこんな遊びをしていたななん

みかんのかごを運びながらの親子の何気ない会話 時間におわれてどうしてもピリピリするので、自分自身も優しくなれたような気がします。

参加者（保護者）：山中先生（※注：アドバイザー）がとても素敵で、スゴい方なのに、自然に話しかけてくださったことがうれしかったです。

○ 事業の成果

・すぐに成果が出る事業ではないが、2日間、自然の中に身を置いて、のんびり過ごすことで、保護者はふだんのピリピリした雰囲気ガラックスムードになり、子どもはネットやテレビから離れる時間ができる。

・この時間が、ふだんの生活をリセットし、親子関係を再構築することには確実になっている。

・アドバイザーのかかわりがとても自然で、一緒に時間を過ごしながらのフリートークで保護者の子育て観の醸成へとつながっている。複数回参加した家族は、「親子の会話が増えました」というコメントを残している。

○ 事業の課題

内容的にあまり多くの参加者を規定しては効果が薄れるし、かといって、少なすぎても実績としてのアピール度に欠けてしまう事業である。

しかしながら、自然の家の教育的機能を考えた時に、拠り所としての位置づけで続けていることが大切だ、とアドバイザーと合意しているところである。高知県心の教育センター、各市町村の支援センターとともに連携しつつ、息の長い事業として続けていきたい。

新茶の香り！家族で茶つみ！手もみ製茶体験！

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

春の息吹を感じながら、茶摘みや手もみの製茶を体験したり、雄大な海の自然にふれたりして、親子の絆を深める。

○ 実施期間

平成29年5月6日（土）～平成29年5月7日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学1～3年生とその保護者・家族 38名／40名

○ 活動プログラム

5月6日（土）		5月7日（日）	
13：20	はじまりのつどい オリエンテーション 野外炊事場へ徒歩移動	6：00	起床・洗面・清掃・自主点検 自家用車で移動・シーツ返却
14：00	茶摘み 手もみ製茶 試飲	7：15	朝のつどい
16：30	おもしろ自転車	7：30	朝食
17：30	夕べのつどい	8：40	自家用車で自然の家 発
17：45	夕食（食堂） 入浴（各部屋の浴室） 自由時間	9：10	海の駅とろむ（室戸岬新港）着
21：00	就寝	9：30	くろしお号出航
		10：30	着岸（とろむ） 下船
		10：40	おわりのつどい 解散

2. 活動の様子

< 1日目 >



開会式、オリエンテーションの後、徒歩で野外炊事場に移動し茶摘みと手もみ製茶について説明した。特に「一芯二葉」を意識づけ、柔らかい新芽を摘むように呼びかけた。朝降っていた雨も上がり、茶の葉も乾いて茶摘みには適した条件のもと、緑鮮やかな茶園で和やかに茶摘みをする家族の様子が見られた。

20分間摘んだ後、野外炊事場に戻って葉を煎り手もみして製茶をした。ほとんどの家族が初体験だったらしく「摘んですぐお茶にするととは思わなかった。」「いい香りがしてきたね。」などと会話しながら、楽しそうに作業を進めていた。特に手もみをするときには子供達が大活躍だった。

「煎る、もむ」の作業を2回した後、新茶を試飲し、残った茶の葉は持って帰って宿泊する部屋や

自宅で干してもらうように伝えた。そして後片付けを家族で分担して行った後、ミニサイクリング場へ移動した。楽しみにしていた子供達も多く、親子で仲良く自転車に乗る姿が見られた。

夕食後は宿泊する部屋に入り、家族でゆっくりと過ごしてもらった。

< 2日目 >



朝のつどい、朝食の後、海の駅「とろむ」に自家用車でそれぞれ移動した。ミニクルージングを担当する職員からの注意事項を聞いた後、ライフジャケットを身に着け、くろしお号に乗船した。

港を出て室戸岬方面に向かった。室戸岬沖にさしかかると波が高くなったが、一部の利用者はトビウオが跳ねる姿も見ることができ、歓声をあげていた。

連休の終わり2日間の日程ということもあり、活動を詰め込まず終了時刻も早くしたことは良かった。事業全体を通じて、家族で一緒に過ごす子供達の楽しそうな笑顔が見られた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・茶摘みという企画や1泊することが良かった。
- ・とても楽しく、充実した時間を過ごすことができた。
- ・茶摘みはいつでも体験できることではないので良かった。
- ・家族で過ごせて楽しかった。
- ・予想以上に美味しいお茶ができたのでうれしかった。

○ 事業の成果

普段は熱い日本茶を飲まないという子供が、香りを楽しみ「おいしい」と言いながら自分の水筒にも入れてもらっていた姿が印象的だった。特にお母さん達からは「楽しかった。もっとやりたい。」「こんな体験ができてよかった。」などの声が聞かれた。今までは5月の連休中に宿泊した家族対象に行ってきた茶摘みだが、このように事業として行うことで、この季節しか味わえない自然体験をたくさんの方々にしていただくことができた。

○ 事業の課題

濡れた葉やあらかじめ摘んでおいた葉は製茶に適さないので、当日の昼まで茶摘みができるかどうか心配だった。事業として続けていくには、雨天や雨上がりで茶の葉が濡れている場合にも、この季節ならではの体験をしていただけるよう、準備しておく必要がある。今回は前日に摘んでおいた葉も用意していたが、多少の雨が降っても茶摘みを行い濡れた葉の水気をふき取って煎った方がいいのか、事前にいろいろと試して、かかる時間や香りの違いについても把握しておきたい。事業を担当する者がもっと経験を積んでおくことも必要だと感じた。

むろとでチャレンジ①「3・4年生宿泊体験①②」

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

5年生で各学校で行われる集団宿泊訓練を前に、宿泊体験を行うことで各校での集団宿泊訓練時にリーダーとして活躍できる人材を育成する。また、高知県内の様々な学校の児童が1泊2日の活動をとにもすることで、積極的に仲間づくりをする姿勢を養う。

○ 実施期間

A日程 平成29年5月20日（土）～平成29年5月21日（日）1泊2日

B日程 平成29年5月27日（土）～平成29年5月28日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

A日程 小学3・4年生 40名／40名

B日程 小学3・4年生 38名／40名

○ 活動プログラム

A日程 5月20日（土）	B日程 5月27日（土）	A日程 5月21日（日）	B日程 5月28日（日）
11：45 自然の家着 開講式		6：00 起床・洗面・着替え 荷物の整理	
12：00 昼食			部屋の片付け
13：00 仲間づくり		7：15 朝のつどい	
14：00 スコアオリエンテーリング		7：30 朝食	
17：30 タベのつどい		8：30 部屋の掃除	
17：45 夕食		8：45 退所点検	
19：00 入浴		9：30 野外炊事	
20：00 天体観測		11：30 昼食・後片付け 休憩・アンケート記入	
21：00 班会			
21：30 就寝準備		13：15 閉講式	
22：00 就寝		13：30 自然の家発	

2. 活動の様子

<1日目>

初めての宿泊体験という参加者が多く、バスに乗り込む際、保護者との別れに涙ぐむ参加者も見られた。ボランティアリーダーのバスレクの効果もあり、室戸に近づくころには笑顔が見られるようになっていた。入所後はボランティアリーダー企画の仲間づくりゲームを通して、参加者全体や班での親睦を深めた。その後、外に出てスコアオリエンテーリングを行った。グループ内で5m以上離れないことや喧嘩をしないこと等を約束し、班ごとに作戦を立てて所内に散っていった。地図と実際の距離感に戸惑い、自分たちのいる位置が分からなくなる班がたくさんいた。迷いながらも、ポストを見つけ、リーダーを中心に班の結束が高まっていた。夜は、天体観測を行い、班ごとに望遠鏡をのぞいて木星の衛星を見たり、春から夏にかけての星座の観察をしたりした。初めて望

遠鏡を覗く参加者が多く、木星の見え方に驚いていた。



< 2日目 >

朝食までに寝具を片づけたり、自分の荷物をまとめたり、部屋の掃除をしたりと忙しい時間を過ごした。わずか1泊ではあるが、学校を超えた仲間意識が出来上がっていて、自分のところだけでなく、部屋全体が合格するように協力が見られた。最後の野外炊事では、二日間優しく接してくれたボランティアリーダーに美味しいカレーを食べさせることを目標に、それぞれが自分にできることを考えて、カレー作りに取り組めた。ご飯の炊きあがりやカレーのルーを入れるタイミング等で苦労する班が多かったが、班全員で話し合っってタイミングを見計らっていた。ご飯の蓋を開けた時には、どの班も歓声が上がっていた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・カレー作りがおもいでにのこった。
- ・いろいろなことを知った。
- ・楽しかったから、また出してほしいです。
- ・友だちがふえていっしょにまなべた。
- ・星がすごくきれいだったし、ぼうえんきょうで見るのがはじめてだった。

○ 事業の成果

参加者に大きな病気やケガがなく、また両日とも天候に恵まれ、予定していたプログラムがすべて順調に進んだ。十分に体験活動が行え、今回得た経験は各学校で行われる集団宿泊体験の際に彼らの役に立つものになったはずである。事業全体を振り返ると、3・4年生にとっては初めての経験が多いせいか、何をするのも楽しみながら取り組んでいた姿が印象的だった。また、ボランティアリーダーを先生と呼ぶ参加者が多く、リーダーの言うことをよく聞いて、班でよくまとまって活動ができていた。

○ 事業の課題

一つ一つの動きが遅いため予定より準備に時間がかかる場合があった。先に大まかな行動の流れを参加者に伝えておくことで時間の短縮を図り、活動時間を確保するよう努めたい。

日本列島ともだちの輪（夏編）

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

お互いに異なる地域の子供たちが交流し、自然環境の違いを体験することで、ともだちの輪を広げ、郷土の良さを再認識するとともに、他者を尊重する気持ちを育むことをねらいとする。

○ 実施期間

平成29年8月17日（木）～平成29年8月20日（日）3泊4日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学5・6年生、中学1・2年生 30名／30名

○ 活動プログラム

8月17日（木）	8月18日（金）	8月19日（土）	8月20日（日）
15：00 受付 レクリエーション	6：00 起床・洗面 健康観察	6：00 起床・洗面 健康観察	6：00 起床・洗面 健康観察
16：15 開講式 オリエンテーション	7：10 朝食	7：15 朝のつどい 朝食	清掃・荷物整理 シーツ返却
16：45 入室 ベッドメイキング	7：30 自然の家発	9：00 自然の家発	7：15 朝のつどい 朝食
17：30 タベのつどい 夕食	9：30 牟岐少年自然の家着 9：45 無人島体験 スノーケリング	9：30 ミニクルージング ハロールドルフィン	8：10 退所準備 退所点検
19：00 仲間づくり	11：30 昼食 スノーケリング	12：00 自然の家着 昼食	8：45 感想アンケート記入 閉講式
20：30 入浴	13：15 無人島発 着替え等	13：30 バウムクーヘンづくり 流木クラフトづくり	10：00 退所
21：10 班会	14：50 牟岐少年自然の家発	17：30 タベのつどい 夕食	【室戸】 12：45 はりまや橋観光BT着
21：40 就寝準備	17：30 タベのつどい 夕食	18：30 キャンプファイア	【丹波】 17：30JR 新三田駅着
22：00 就寝	18：30 班別活動	20：30 入浴	
	20：30 入浴	21：10 班会	
	21：10 班会	21：40 就寝準備	
	21：40 就寝準備	22：00 就寝	
	22：00 就寝		

2. 活動の様子

<1日目>

高知県の参加者30名は自然の家に到着後、丹波からの参加者を迎えるためにすぐに環境整備に入った。作業をする中で、高知県の子供たちの緊張感がずいぶん和らいだように感じた。丹波のバス到着を高知の子供が笑顔で迎えた。夕食後の仲間づくりでは、ボランティアリーダーが今回のキャンプの概要をミッション仕立てにして掴ませながら、徐々にともだちの輪が広がっていくようプログラムを組み立てて工夫して行い、参加者も緊張することなく交流を楽しんだ。夜は翌日のスノーケリングに備えて準備を行い、軽めの活動とし、全員落ち着いて就寝した。



<2日目>

早朝、2台のバスに分乗して室戸青少年自然の家を出発し、徳島県立牟岐少年自然の家に向かった。牟岐少年自然の家では、プールを使ってスノーケリングの練習を行った。マスクの装着の仕方から始まり、マスククリア、スノーケルクリア等をバディで確認し、海への期待感を高めつつバディとの信頼関係も築いていた。予定していた無人島への渡航は未明の激しい雷のため渡船を出すことができず断念することとなった。かわりに、牟岐少年自然の家の浜から海の中を歩いて松ヶ磯に渡り、磯だまりの中や周辺でスノーケリングを行った。無人島には渡れなかったが、たくさんの魚や磯の生物を見ることができた。見つけた魚を指さしてバディに教えて、感動と興奮を共有する場面が多くみられた。夜は室戸に戻り、班対抗のすごろく大会を行った。体育館いっぱいに作られた巨大すごろくのマスへの指示に従い、全身を使ったダイナミックな活動を行いながら班の中の親睦を深めた。



<3日目>

2班に分かれ、室戸岬を船上から眺めるミニクルージングとドルフィンセンター内のイルカを間近で見るハロールドルフィンを交代で楽しんだ。班ごとにまとまってドルフィンセンター内を歩き、班の中の親睦が深まっている様子を感じられた。



午後は自然の家に戻り、班で協力して行うバウムクーヘンづくりと個人で取り組む流木クラフトづくりに取り組んだ。時間とともに大きくなるバウムクーヘンに夢中になり、他の班よりも上手につくろうと班の中で声を掛け合いながら夢中で焼いていた。バウムクーヘンを竹から取り外し、断面の年輪を見て「うまくできた」と歓声が上がっていた。



夜は、班ごとに焚火台を囲み、班ごとのミニキャンプファイアを行った。火を見つめながら3日間を振り返り、「初めは緊張したけど、どんどん仲良くなれて嬉しかった」とか「冬編でまた会うのが楽しみ」といった声が聞かれた。思わず涙ぐむ班もあり、濃密な三日間を過ごしたことが感じられた。

<4日目>

丹波からの参加者の移動時間を考慮し、最終日は感想やアンケートを記入して10時に退所となった。丹波からの参加者がバスに乗り込むのを花道を作って見送り、参加者もボランティアリーダーも笑顔と涙の入り混じったお別れとなった。冬編での再会を誓い合う姿が印象的だった。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・全く知らない人と仲良くなれるか心配だったけど、みんなとてもフレンドリーですぐに仲良くなれてうれしかったです。

・スノーケリングでは小さな魚が目の前でたくさん見られてとてもかわいかった。エビを捕まえようとしたけど、動きが素早くて捕まえられなかったのが悔しかった。無人島には行けなかったけど、友達やリーダーと楽しめたのでよかった。

・キャンプファイアでは三日間のことをいろいろ話しているうちに寂しくなっすごく泣いてしまいました。三泊四日すごく楽しかったので、帰るのは寂しくてまた泣きそうだけど、冬編がとても楽しみです。

○ 事業の成果

・スノーケリングを通して、自分の見た感動をボディに伝えあう姿が見られ、自然なコミュニケーションを生み出すきっかけとなった。また、スノーケリングはどの参加者の感想の中にも、楽しかった思い出として記述されていた。

・ミニクルージングやハロードルフィンの際に、班ごとにゆったりと過ごす時間が生まれ、班ごとの思い出作りの時間となり、結果的に班の絆を深める時間となった。

・焚火台を囲んでのキャンプファイアは、参加者一人一人が心のうちに思っていることを素直に口に出す雰囲気づくりに大いに役立った。

・ボランティアリーダーの企画した仲間づくりは、参加者同士の仲を深めるための段階的な課題を与える工夫もあり、ねらい通りの成果を上げることができた。

○ 事業の課題

・丹波少年自然の家から室戸までの道のりが遠いため、到着予定時刻が予測しにくい。今回、予定よりも1時間近く早く到着しそうになったため、急きょ丹波の参加者だけ別プログラムとして室戸岬探勝を実施した。丹波からの参加者の到着時刻が前後した場合を想定したプログラム作りをしておく必要がある。

・個人作業の流木クラフトづくりと共同作業のバウムクーヘンづくりを同時進行で行ったが、個人作業と共同作業のバランスがうまく行かず、トラブルの元となる班もあり、プログラム精選の必要を感じた。

・リピーターの参加者も多く、過年度の活動プログラムを考慮して、活動計画を企画していく必要がある。

森のようちえんむろと

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

山と海が密接につながっている室戸の自然環境をダイナミックに体験し、幼児が自然にふれ、親から離れて生活することを通して、たくましさを育てることをねらう。

○ 実施期間

①平成 29 年 6 月 10 日（土）～6 月 11 日（日） 1 泊 2 日

②平成 29 年 9 月 9 日（土）～9 月 10 日（日） 1 泊 2 日

③平成 30 年 1 月 13 日（土）～1 月 14 日（日） 1 泊 2 日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

年長児 （③のみ親子受入れとして実施、その保護者）

① 20 名／16 名 ② 15 名／16 名 ③ 15 名／20 名

○ 活動プログラム

6 月 10 日（土）※1 日目	6 月 11 日（日）※2 日目
9：30 高知市出発（バス移動）	6：00 起床・洗面
12：00 自然の家到着 昼食	7：00 朝のさんぽ
13：30 はじまりの会	9：00 森遊び開始
14：00 森へ行こう 森遊び開始	11：00 終了 終わりの会
16：00 終了 宿泊部屋へ移動	12：00 昼食
18：00 夕食 入浴 入浴後は部屋でリーダーと過ごす	13：00 自然の家出発（バス移動）
21：00 就寝	15：30 高知市到着
	※9 月も 1 月もプログラムは同様に、1 月は親子で一緒に体験をしてもらった。

2. 活動の様子



絵本読みから森の活動が始まります。



道具の使い方をちゃんと知れば危なくない。



包丁にも挑戦！



自然に共同作業が生まれます。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

保護者アンケートより

・はじめて親から離れての1泊でした。親の心配をよそに、子どもは「楽しかった！」と帰ってきましたが、子どもよりも私のほうが貴重な体験になったように思います。また参加させたいと思います。

・帰ってきて「ほうちょうでやさいを切った！」とか「ひとりで寝られた！」とうれしそうに話してくれました。勇気がなくて、包丁を使わせるにはまだ思いきれませんが、そのうち家でもいろいろやらせてみたいと思います。

○ 事業の成果

高知県にはまだ、幼児の自然体験があまり受け入れておらず、子どもだけの宿泊プログラムは驚きをもって受け入れられたが、親の心配をよそに、子どもはたくましく、1泊2日のプログラムに参加することができた。子どもと離れて過ごすことで、「親育て」の機会にもなっており、互いに自立を促す機会となったようだ。

○ 事業の課題

このプログラムの実施には、ボランティアリーダーのカウンセリング能力が求められる。生活のフォローをしつつ、時には優しく、時には見守るというスキルが必要である。経験したリーダーのスキルアップにはつながったが、未経験者にはハードルが高く、事前のトレーニングが不可欠である（実際に、担当者が大学に行って事前研修を行うなどして事業に臨んだ）。

日本列島ともだちの輪（冬編）

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

異なる地域の子どもたちが交流し、生活様式や自然環境などの違いを体験するとともに、ともだちの輪を広げ、各地域の良さを発見する。

○ 実施期間

平成30年2月10日（土）～平成30年2月12日（月）2泊3日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学5・6年生、中学1・2年生 28名／30名

○ 活動プログラム

2月10日〔土〕	2月11日〔日〕	2月12日〔月〕
8:00 集合 8:30 高知出発 14:00 はじめのつどい 14:30 ともだち再会交流ゲーム 16:00 丹波栗でクッキーづくり 17:30 夕食 19:00 リーダーや班との交流会 21:30 就寝	10:00 スキー教室 12:00 昼食 13:00 スキー体験 or 雪遊び 19:00 お別れパーティー 20:00 感想発表会 22:00 就寝	9:45 丹波電化工房見学 化石発掘体験 12:00 感想・アンケート記入 12:15 おわりのつどい 12:30 昼食 13:00 丹波出発 18:30 高知着・解散

2. 活動の様子

< 1日目 >



全国的にインフルエンザが流行しており事業実施が危ぶまれたが、体調不良による欠席は1名だけで、28名の参加者を乗せて高知から丹波に向けて出発した。途中昼食やトイレ休憩をはさみながら、バスによる6時間の移動を行い、丹波少年自然の家に着いた。丹波少年自然の家周辺には先週降った雪が残っていた。夏編で別れた丹波の友達と再会し、気持ちが高揚する様子が見られた。丹波の参加者に案内されて自分の部屋で荷物を降ろし、班ごとに再会を楽しむ交流ゲームを行った。長縄跳びをしたり、ドミ

ノをしたり、施設内をオリエンテーリングしたりと班ごとに再会を楽しんでいた。ゲームの後は、丹波栗を使ったクッキーづくりを行った。栗のつぶし方やバターの量、クッキーの大きさなどそれぞれの班の個性が表れていた。夕食後、焼きあがったクッキーを食べながら、歓談をした。共同作業を行い、美味しいものを食べることで時間が隔てていたお互いの距離をぐっと縮めることができていたように思う。その後、リーダー企画のゲームを全体で行い、翌日のスキーに備えて早めの就寝となった。



< 2日目 >

前日の雨も上がり、池の水も凍る厳しい冷え込みの中、意気揚々とスキー場に向けてバスに乗り込んだ。三連休の中日ということもあり、スキー場へ向かう道はスキー客と思われる車で渋滞していたが、おおむね予定していた時間通りに到着することができた。スキーウェアに着替えて、リフト券を受け取り興奮気味にゲレンデへと出て行った。インストラクターから諸注意を受

けて、クラス別のスキー体験が始まった。ときおり強い風で地面の雪が舞い上がる地吹雪の中での講習となったが、滑れるようになりたい一心で黙々と練習に取り組んだ。講習の後半では、スキーを初めて体験した初級クラスのメンバーもリフトに乗り、一団となって滑り降りてくる姿が見られた。2時間前には考えられない風景で、満足した表情で昼食に帰ってくる者が多かった。昼食のカレーをしっかりと食べて、午後からはスキー体験を続ける者と雪遊びをする者に分かれて活動した。中級クラスのメンバーは全員スキー体験をすることとなり、リフトに乗ってあっという間に山頂へと消えていった。初級クラスもスタッフやリーダーと一緒に滑りながら、止まったり曲がったりといった基本技術が身につけてきたようで、休むことなく滑り続けていた。雪遊びのチームは最初はゲレンデの中で雪をかき集めて遊んでいたが、後半は吹き溜まりの新雪を見つけて、誰も踏み込んでいない雪の感触を体全身を使って楽しんでた。髪の毛やまつ毛が凍りついていて、笑顔に溢れ思い切り楽しんできた様子がうかがわれた。名残惜しい気持ちを残しながらスキー場を後にし、丹波少年自然の家へと戻り、お別れパーティーを行った後、夏編から続く日本列島ともだちの輪全体の感想発表会を行った。全員が感想を発表したが、友達との関わりが深まったことやリーダーのやさしさ等に触れる発表が多く聞かれた。



ムは最初はゲレンデの中で雪をかき集めて遊んでいたが、後半は吹き溜まりの新雪を見つけて、誰も踏み込んでいない雪の感触を体全身を使って楽しんでた。髪の毛やまつ毛が凍りついていて、笑顔に溢れ思い切り楽しんできた様子がうかがわれた。名残惜しい気持ちを残しながらスキー場を後にし、丹波少年自然の家へと戻り、お別れパーティーを行った後、夏編から続く日本列島ともだちの輪全体の感想発表会を行った。全員が感想を発表したが、友達との関わりが深まったことやリーダーのやさしさ等に触れる発表が多く聞かれた。

< 3日目 >

最終日となり、荷物をバスに積み込み丹波少年自然の家を出発した。二つの班に分かれて、化石発掘体験と化石工房見学を交代で行った。丹波竜が発掘された場所の岩石を割り、本物の化石が出るということで、目の色を変えて一心不乱に石を割り、出てきたものを係の方に鑑定してもらっていた。そんな中、トカゲやカエルの化石に続いて丹波竜の化石が出てきて盛り上がった。きっと掘り出した本人には一生忘れられない思い出になったと思われる。体験後、場所を移動して2つの班が集まり、



おわりのつどいを行った。夏編の3泊4日、冬編の2泊3日、あわせて5泊7日の長い期間ともに過ごした友達やリーダーとの別れを実感する声がたくさん聞かれた。昼食の後、いよいよ別れの時



となり、室戸の参加者がバスに乗り込み、丹波の参加者が手を振って見送ってくれた。バス出発後、しばらく車内は別れの余韻に浸っていた。四国に降った大雪の影響で高速道路の通行止めが各所で行われていたが、運よく解除され、予定通り高知まで帰ることができた。参加者は満面の笑みをたたえながら、迎えに来た保護者にスキーの話をしたり、お土産を渡したりしながら帰って行った。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・夏編の別れと違って、冬編は次の再会がないので本当に寂しい。
- ・夏編では最初戸惑ったけど、冬編では最初から打ち解けて話をする事ができた。

- ・初めてのスキーでたくさん転んだけど、みんな励ましてくれたり助けてくれたりして嬉しかった。
- ・本当に楽しい7日間で、班の友達やリーダーには「ありがとう」の言葉でいっぱいです。
- ・手紙を交換して、これからも交流が続けられる友達ができ、参加して良かった。
- ・会えない期間が6カ月もあったので、再会した時にはかなりテンションが上がった。

○ 事業の成果

一番楽しみにしていた活動はスキー体験であったが、3日間を終えての参加者の感想の大半が、友達との交流が深まったことであり十分にねらいが達成できた。

高知県と兵庫県のボランティアリーダーが共に活動することで、お互いのノウハウを共有しあえた。今後の活動に生かされていくことが期待される。

○ 事業の課題

全国的にインフルエンザが流行している中での実施となった。マスク着用や手や口の消毒などの徹底を行ったが、寒くて乾燥する時期でもあり、健康管理に課題が残る。

教員免許状更新講習

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動指導技術について実習を通して身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

○ 実施期間

平成30年2月10日（土）～平成30年2月11日（日）選択領域18時間分

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

平成31年3月31日及び平成32年3月31日に修了確認期限を迎える小・中学校教諭30名
49名／30名

○ 活動プログラム

	2月10日（土）		2月11日（日）	
	内容	講師	内容	講師
午前	開会行事、オリエンテーション		講義「体験活動の意義と学習指導要領」	四国学院大学総合教育研究センター 教授 清水 幸一 氏
	講義「子供の意欲・健康に関する生活習慣の重要性」	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 久保 まき	講義・実習「ジオパークを活かした自然体験活動の指導法」	室戸ジオパーク推進協議会 地理専門員 中村 有吾 氏
	講義「学校教育の現状と課題」	室戸市教育委員会 教育長 谷村 正昭 氏		
午後	演習「学級経営に活かせる体験活動の指導法」	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職兼事業推進係長		
	実習「野外炊事」	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 竹島 稔	履修認定試験	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職
	講義「安全管理」	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職兼事業推進係長 高瀬 宏樹	閉会行事	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 竹島 稔 企画指導専門職 久保 まき

2. 活動の様子

1月10日（土）



講義「子供の意欲・健康に関する生活習
の重要性」



講義「学校教育の現状と課題」



演習「学級経営に活かせる体験活動の指導法」



実習「野外炊事」（講義）



実習「野外炊事」（事前準備）



実習「野外炊事」



実習「野外炊事」



実習「野外炊事」（食事の完成）



講義「安全管理」

1月11日（日）



講義「体験活動の意義と学習指導要領」



講義「ジオパークを活かした自然体験活動の指導法」



荒波オーケストラ（室戸岬）



そっくりさんを探せ（室戸岬）



地質・地形観察（室戸岬）



タービダイトの見学（室戸岬）

3. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

本講習は平成31年3月31日と平成32年3月31日が修了確認期限となる対象者の募集、事業実施となった。

1日目は「子供の意欲・健康に関する生活習慣の重要性」や「学校教育の現状と課題」「安全管理」の講義と、「学級経営に生かせる体験活動の指導法」の演習、「野外炊事」の実習を実施した。「学級経営に生かせる体験活動の指導法」では、体験学習の学習サイクルに沿って、「木」のつく漢字探しやフープを使ってのゲーム等を実施した。「野外炊事」では、各学校が防災教育に力を入れていることから災害時を想定して水の使用量を制限し、災害救助用炊飯袋を使っての炊飯と、ジッパー付き袋を使ってカレー作りに取り組んだ。受講者は班で互いに話し合い、工夫し合いながら調理をしていた。

2日目は「体験活動の意義と学習指導要領」や「ジオパークを活かした自然体験学習の指導法」の講義や演習を実施した。「ジオパークを活かした自然体験学習の指導法」では、「室戸ユネスコ世界ジオパーク」を教材に、室戸岬の体験学習プログラムを実際に体験しながら歩いた。「荒波オーケストラ」では五感を使った自然体験、「そっくりさんを探せ」では観察する力やグループでの協力、「地質・地形観察」では小道具の利用、「亜熱帯性樹林」では大地・生態系・文化のつながり

を体験できた。演習と講義を通して参加者同士のコミュニケーションも深まり、体験活動の効果について実感することができた。

受講後の「免許状更新講習受講者評価書」の評価を見ると、「総合評価」「よい」が79.6%、「だいたいよい」が20.4%であった。講習内容についての満足度はかなり高い評価を得ることができた。

○ 事業の課題

受講者からは、インフルエンザ等の感染症が心配なこの時期を避けてほしいという声もある。修了確認期限が平成32年3月31日である受講対象者が多いことを考慮し、来年度は8月に2泊3日、2月に1泊2日で実施する予定である。

本年度の成果と課題を踏まえ、参加者の要望も取り入れながら充実した講習になるように運営の改善、講習内容の検討を行っていきたい。

おもしろ理科工作（親子編）

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子どもたちの理科離れが問題となって久しいが、現実には子どもの理科の成績が世界的に見ても高いにも関わらず、理科を楽しんでいる子どもが少ないことに問題がある。目に見えない自然の法則を机上の空論ではなく、実体験を通して考える活動を通して子どもたちに理科の楽しさを実感させることで、子どもが理科を好きになるきっかけ作りとしたい。

○ 実施期間

平成30年2月17日（土）～平成30年2月18日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

10組（32名）／家族10組

○ 活動プログラム

2月17日〔土〕	2月18日〔日〕
12:30 参加者集合・受付	6:30 起床
13:00 開講式	7:30 朝のつどい
13:30 理科工作	7:45 朝食
16:00 配宿・ベッドメイキング	9:30 理科工作
17:00 タベのつどい	11:30 アンケート記入
17:15 夕食	11:45 閉講式
19:00 天体観測	12:00 昼食・解散
22:00 就寝	

2. 活動の様子

< 1日目 >

高知県内から10家族34名の参加者が集まり、おもしろ理科工作（親子編）を開催した。参加対象の年長児や小学校低学年児だけでなく、その家族として3歳～小学校4年生の子どもが保護者とともに理科工作に取り組んだ。1日目は4つの理科工作を行った。

① 飴玉浮沈子

袋に入った飴にクリップを取り付けた物を水の入ったペットボトルに入れるだけで、水の中で飴が浮いたり沈んだりする様子を楽しんだ。その後、魚型の醤油入れに油性ペンで色や模様を付けたものにステンレスナットを取り付けて同じく浮沈子とした。幼児も色を付ける作業を楽しむことができた。ペットボトルを手で押したり離したりした時の中の空気の様子を観察し、浮沈子や人間が浮いたり沈んだりする理由を考えた。



② くじらの潮吹きおもちゃ（糸吹き上げ）

太さの異なる二種類のストローの中にループ状にした糸を通して、強く息を吹くことで糸が勢よく吹き上がるおもちゃを作った。糸をつなぐためのボンドを極限まで少なくすることがポイントとなり、少ないボンドでも糸がきちんと繋がることに驚いていた。完成したおもちゃに息を吹き込んで遊んだ。



③偏光ゼロハンテープ

偏光メガネを蓋つきシャーレに貼り、その中に入れたプラ板にゼロハンテープをたくさん貼って色の変化を楽しんだ。無色透明のゼロハンテープを2枚以上重ねて偏光レンズを通すことで思いがけない色が見え、スタンドグラス風の作品作りを親子で楽しんだ。



④ぶんぶんゴマ

ペーパーコースターに穴を開けてタコ糸を通し、ぶんぶんゴマを作った。糸を手で引っ張ったり戻したりするタイミングに苦労する子どももたくさんいたが、何度か繰り返すうちに手ごたえをきっかけに手を動かせばよいことが分かり、ぶんぶんと言いをあげて回るコマが増えた。



⑤天体観測

夕食後、宿舎となる第1ロッジに移動して天体観測を行った。月明かりのない快晴で、満天の星空の下、プラネタリウムソフトを使いながらオリオン座大星雲やプレアデス星団などを探した。

<2日目>

全員元気に朝のつどいに参加し、朝食をとった。朝食後は中庭で遊んだり、1日目の工作の続きを楽しんだりして工作開始までの時間を過ごしていた。

⑥スライム

PVAと水の比率を変えながら、硬さの違う3種類のスライムを作った。PVAを減らすことで、スライムが柔らかくなっていく様子を楽しんだ。参加していた幼児も不思議な感触に夢中になって遊んでいた。



⑦ぐるぐるスネーク

モールを渦巻き状に巻いて紙コップの底の上に置き、側面に穴を開けて筒状にした紙を差し込んで声を出し、モールが回転する様子を楽しんだ。回転速度と声の高さや大きさに関係することを説明すると、夢中になっていろいろな声を出して楽しんでいた。



⑧ストロー笛

バルンをリードとするストロー笛を作った。バルンをちょうどよい大きさに切ることに苦労し、なかなかきれいな音が鳴らなかったが、最終的には全員が音の鳴る笛を完成させることができた。

⑨ぴよこぴよこカプセル

食品カプセルに鉄球を入れただけの単純なおもちゃではあるが、手のひらで転がした時のクレイアニメのような動きを楽しんだ。親子で協力しながら、思い思いの色で飾り付けていた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・知らなかった理科の原理を知ることができて楽しかった。子供の成長を実感できてよかった。
- ・夜の天体観測も楽しかった。
- ・親子で参加でき、良い体験ができた。流れもゆったりで良かった。

○ 事業の成果

子どもだけでは理解しにくい原理も幾つかあったが、それぞれの保護者が子どもの発達段階に応じて説明することで理解が深まったように思う。また、子どもだけでなく、大人も理科を身近に感じてもらうことができた。

○ 事業の課題

工作の速度に個人差が大きく、全体のバランスをとることが難しかった。結果的には保護者の協力もあって、参加者全員が満足いく成果物を作ることができていたが、対象年齢以外の兄弟の参加も多く、工作の難易度の設定が難しかった。

ふれあい通学合宿

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

規則正しい生活をする事により、自分で生活と学習のリズムを作れるようになるとともに、新しい環境・人間関係の中でも、積極的にコミュニケーションをとることができる子どもの育成を目指す。

○ 実施期間

平成30年2月17日(土)～平成30年2月24日(土) 7泊8日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

室戸市内の小学校5・6年生 30名/50名

○ 活動プログラム

	2/17 (土)	2/18 (日)	2/19～22 (月)～(木)	2/23 (金)	2/24 (土)
朝		6:00 起床・洗面 6:50 朝食 8:20 自然の家発 9:40 飛脚レース スタート 11:30 閉会式	6:00 起床・洗面 6:50 朝食 7:15 自然の家発	6:00 起床・洗面 6:50 朝食 7:15 自然の家発	6:30 起床・洗面 7:30 朝のつどい 朝食・清掃 退所点検 振り返り 9:50 閉会式・退所
昼	13:55 吉良川小着 コース下見 15:20 自然の家着 15:30 開会式 オリエンテー ション 16:00 アイスブレ イキング	12:30 公園で昼食、 レク 14:00 移動 15:30 野外炊事	学校	学校	
夕	17:00 タベのつど い 18:30 学習 19:00 仲間づくり 20:00 班会・入浴 21:00 就寝準備 21:30 就寝	夕食 片付け 18:30 学習 19:00 仲間づくり 20:00 班会・入浴 21:00 就寝準備 21:30 就寝	17:00 タベのつどい 17:15 夕食・洗濯 18:30 宿題 19:30 レクリエーシ ョン 等 20:00 班会・入浴 21:30 就寝	17:00 タベのつどい 17:15 夕食 18:15 キャンドルファイ ア 振り返り 20:30 入浴 21:30 就寝	

2. 活動の様子

2月17日(土)

室戸市内4つの小学校から5・6年生35名が本年度のふれあい通学合宿の参加者として決定し、全員が一堂に会する予定だったが、インフルエンザに罹患している者、スポーツの試合や練習等のために参加が遅れる者を除いた33名でのスタートとなった。今年の参加者が通う4校はそれぞれ進学する中学校が校区内にあり、行事等の交流が少ない。これから始ま



る1週間への不安と緊張からか、表情が硬い参加者が多かった。しかし、吉良川の町並みを一緒に歩き（翌日の飛脚レースの下見）、アイスブレイキングや夕食、班対抗のレクリエーションをしているうち、緊張感の中に少しずつ笑顔が見られるようになってきた。

② 2月18日（日）



日曜参観日のため登校しなければならない学校の児童を除き、当施設の地元で開催される、「吉良川町並み飛脚レース」に参加した。自然の家チームの他に、所属している野球や陸上のチームで参加する児童もあり、お互いに健闘を祈ってのスタートとなった。地域の方々の温かい見守りの中、土佐漆喰の白壁と水切り瓦の残る美しい町並みを見ながら関所まで移動して、問題に取り組んだりお接待を受けたりした。どのチームも設定タイムに近づくよう、作戦を立てて臨み、良い成績を残すことができた。

閉会式後は市内の公園に移動し、お弁当を食べ、ボランティアリーダーと一緒に「けいドロ」などをして体を思い切り動かし楽しく交流した。風はやや強く肌寒さを感じたが、元気に走り回った児童たちは上着を脱いで笑顔で外での活動を満喫していた。

自然の家に着くと野外炊事場に移動して夕食のカレーライス作りが始まった。学校に行っている友達の分もあり作業は多くなったが、声を掛け合って協力しておいしい夕食を作ることができた。1日中外で元気に活動していたので、どの班の児童も残すことなくもりもり食べていた。食後も残った灰を集めたり鍋をきれいに磨いたり、班の中で分担して手際よく片付ける様子が見られた。

夜は静かに学習した後、通学合宿中の自分や班のめあてを書いた。「早寝早起きをがんばる」「友達と仲良くする」等の発表があり、翌日からいよいよ始まる通学に向けて、持ち物だけでなく心の準備も整えているかのようだった。



③ 2月19日（月）～22日（木）



この一週間、元気に通学するために、規則正しい生活を実践した。通学合宿の初めから5分前には集合し、夜も早めに就寝することができていた。

学習習慣を身につけるために、毎日1時間の学習の時間を設けた。学習時間中は静寂の中で集中して学習に取り組み、分からないことがあっても友達やボランティアリーダーにすぐ聞くのではなく、自分で教科書を見直したり辞書をひいたりする等、自ら学ぶ習慣づけを重視した。宿題が早く終わった児童にはさらに自主学習に取り組みせたり、読書をさせたりして、学習時間は全員が静かに座って過ごすことができていた。

学習の後は大縄跳びやコミュニケーションゲームなどで楽しく過ごす時間を30分間確保し、仲間づくりを意識した活動に充てた。前半、特に女子児童は同じ学校同士でかたまっていたが、後半になると、学校が違っていても楽しそうに話したり遊んだりする姿が見られた。



③ 2月23日（金）

最後の夜ということで、食堂でお別れパーティをした後、キャンドルファイアを行った。そして、静肅な雰囲気の中で、班ごとに輪を作って一週間の振り返り、自分が成長したと感じることや印象に残ったことを伝え合った。翌日に試合等があるため、6人が宿泊することなく帰宅した。友達を見送るため正面広場に全員が集まり、別れを惜しみ、名前を呼びながら手を振る姿が見られた。



④ 2月24日（土）

朝食後、一週間友達と生活を共にした宿泊棟の清掃を丁寧に行った。暖かく晴れ渡った青空の下、今の気持ちや一週間の思い出をみんなの前で発表した。友達やボランティアリーダーとの別れを惜しみながらも、みんな笑顔で満足した表情で帰っていたのが印象的だった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・みんなと話し合ったりレクをしたりふれあったりして楽しかった。
- ・「おはよう」「ありがとう」などの挨拶が積極的に大きな声でできるようになった。

- ・朝6時に目が覚めるようになった。これからも規則正しい生活を心がけようと思う。
- ・バランスの良い食事ができた。

○ 事業の成果

室戸市内の学校の大部分が少人数学級なので、限られた友人関係の中で生活をしている児童が多いが、今回の事業を通して子どもたちの新たな交友を生み出すことができた。初めは同じ学校の児童同士でくっついたり男女が分かれたりと、どこかぎこちない関係が見られたが、合宿後半になると積極的に関わろうとする様子や明るい笑顔がいろいろな場面で多く見られた。

参加者の挨拶の声が小さいことが気になった。そこで、職員やボランティアリーダーが大きな声で挨拶したり、気持ちの良い朝の挨拶ができた班や児童を朝食時に発表したりして、意識させるようにしたところ、後半には朝から元気な声が聞かれるようになった。

今年は地域の行事である「町並み飛脚レース」に出るため1泊増やしたことで時間にゆとりが生まれ、公園に遊びに行ったり班で協力してカレーライスを作ったりすることができた。平日は下校時刻がまちまちで、自由に遊べる時間も少ないので、合宿の初めにこのような交流の時間を長くとれたことは大きかった。

○ 事業の課題

この合宿が始まる前にインフルエンザに罹患した児童が2人いた。1人は水曜日の夜から最後まで参加することができたが、月曜日から参加した児童は、火曜日学校で体調不良を訴えそのまま帰宅したので一晩だけの参加となり、班の友達と交流する時間も十分とることができなかった。この時期の開催は、教育委員会や各学校もインフルエンザ等の感染症を心配している。また、半数近くの児童がスポーツの練習や試合、中学受験などの理由で全日程参加することができず、35名全員が揃う日が一日もなかった。通学合宿の開催時期については所内だけでなく室戸市とも話し合い、再考する必要があると考える。

ともだち！100人キャンプ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

様々な学校の児童が1泊2日の活動をともにすることで、積極的に仲間づくりをする姿勢を養う。

○ 実施期間

平成30年3月17日（土）～平成30年3月18日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学校3～6年生 77名／80名

○ 活動プログラム

3月17日(土)	3月18日(日)
12:00 参加者集合・受付・昼食	6:30 起床
13:30 はじまりのつどい 配宿・ベッドメイキング	7:30 朝のつどい
14:50 森を駆けめぐれ オリエンテーリング	7:45 朝食
17:00 タベのつどい	9:30 みんなでつくろう巨大クラフト
17:15 夕食	11:45 昼食
18:30 100人キャンプファイアー	13:00 おわりのつどい
21:45 就寝	13:30 解散

2. 活動の様子



高知・徳島の2県から77名の参加があった。高知県内で3月に入ってからインフルエンザが流行し、直前のキャンセルがあったことが残念であったが、参加者、ボランティアリーダー、職員スタッフの総勢100名で1泊2日の事業を実施した。

ボランティアリーダーに大人数の参加者と接する経験がなく、初めて当施設の事業に参加した子

供も多かったことから、ゆとりを多く持ったプログラム構成とした。初めの活動はスコアオリエンテーリングをベースとした施設内探検とした。班内での絆を深めることを目的とし、オリエンテーリングポストを巡るほかに、牛小屋、山羊小屋、人工池、サトウキビ畑、おもしろ自転車、冒険の森を開放して自分達が行きたい場所での活動を織り交ぜて実施した。夕食後のキャンプファイアーでは強めの風にあおられる火の粉に難渋しながらもダイナミックなレクリエーションで楽しむことができた。2日目は手形アートを組み合わせた100人クラフトを行った。各班のピースを持ち寄ると大きな絵柄が現れる仕掛けとしたが、完成したクラフトを高所から俯瞰した参加者から大きな歓声が上がっていた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・楽しくて、遊べて、友達もできて嬉しい気持ちになれるいいところだと気づきました。
- ・班のみんなと仲良くできたし、自分でいろんなことをしたりして成長できた。
- ・いろんな友達ができた。100人でいろんなこととしてとても楽しかった。
- ・友達が増えてうれしかったし、他の人も知らない友たちがいっぱいいたけど、来た人たちはほとんどの人が友達を作っていることに気が付きました。
- ・私はこのキャンプに参加して自分を少し変えることができたと思います。自分からみんなに話しかけるって、こんなに気持ちのいいことなんだと実感しました。また来たいです。

○ 事業の成果

従来と事業と比較して、地元の室戸市をはじめとした高知県東部地区や徳島県海部郡内の参加者が多くみられ、広報活動の成果を実感した。特に、徳島県からの参加者が増加したことに大きな手ごたえを感じた。ボランティアリーダーを20名確保して実施したが、これまで登録のみで活動していなかった者を掘り起こす良い機会となった。プログラムの企画立案はリーダー主導で行ったが、この一年間のリーダートレーニングの成果が十二分に生かされたものとなった。当施設では小学校4～6年生向けの事業を主として実施し中学生向けの事業が限られていることから、6年生にとっては最後の思い出の、3年生にとってはこれからのきっかけとなる事業との意図を含んだが、全体で160名を越える応募があったことから裏付けられたように、魅力的な事業として受け入れられたものとする。

○ 事業の課題

これまでになかった規模の組織運営であったことを差し引いても、リーダーの組織運営能力には改善の余地がある。今後のリーダー育成において、力を入れていきたい。

遊びを中心とした幼児期の運動プログラム

～ジオレンジャーになろう～

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

現代の幼児期における子どもの身体活動・運動について、「活発にからだを動かす遊びが減っている」、「からだの操作が未熟な幼児が増えている」、「自発的な運動の機会が減っている」、「からだを動かす機会が少なくなっている」などが課題になっています。そのため、計画的に多様な動きや、からだをいっぱい動かすことをあらゆる機会に提供していく必要があります。

当事業では、幼児が楽しく運動できるよう「ジオレンジャーをめざし修行をする」というストーリーに沿って、【遊んで身に付く 36 の基本的な動き】を取り入れ、身体の操作性を高め、安全に全身をつかって遊ぶ力を身に付けます。

また、各保育園等にある用具を用いることで、出張指導の機会に限らずに運動遊びを先生主導で実施できるようにし、遊びを中心とした幼児期の運動プログラムの普及啓発をします。

○ 実施日

平成 29 年 12 月 3 日～平成 30 年 3 月 5 日 の期間に出張指導をし、13 園で実施

○ 実施場所

各園遊戯室

○ 参加人数

下表の通り、実施した。

	実施園	日程	人数
1	黒潮町立大方中央保育所	2017 年 12 月 3 日	86 人
2	香南市立赤岡保育所	2018 年 1 月 18 日	64 人
3	馬路村立馬路保育所（魚梁瀬保育所と合同）	2018 年 1 月 23 日	19 人
4	阿部こども園（徳島県）	2018 年 2 月 1 日	12 人
5	認定こども園牟岐保育園（徳島県）	2018 年 2 月 8 日	35 人
6	宿毛市立二ノ宮保育園	2018 年 2 月 13 日	19 人
7	宿毛市立小筑紫保育園	2018 年 2 月 14 日	36 人
8	宿毛市立中央保育園	2018 年 2 月 14 日	34 人
9	宿毛市立平田保育園	2018 年 2 月 14 日	26 人
10	奈半利町立認定こども園なはり	2018 年 2 月 26 日	50 人
11	日和佐こども園	2018 年 3 月 1 日	99 人
12	南国市立あけぼの保育所	2018 年 3 月 5 日	28 人

○ 活動プログラム

はじめに	まねっこ遊び	サーキット遊び
「正義の味方になってくれる人を探している」「正義の味方になるための修行をしよう」と提案し、意欲をもって活動に取り組みます。	指導者が動物を模した動きをします。動物の動きは、その後行うサーキット遊びの基礎運動が組み込まれている。子どもたちは、指導者の動きをマネし、多様な動きに挑戦します。	「遊んで身に付く36の基本的な動き」を組み合わせたサーキットに挑戦します。子どもたちの習熟度に合わせてレイアウトを変更し、多様な動きを獲得します。

※園の要望に応じて、園の親子行事で親子のふれあい遊びを取り入れたプログラムも実施した。

2. 活動の様子



3. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

子どもたちは、最初は、慣れない動きに失敗を繰り返していましたが、サーキットの周回を重ねるごとに、上達していくのがわかり、楽しく多様な動きに挑戦することができた。

目に見えて上達している子どもたちの姿に、ある保育者は、「1時間でも変わるものですね。」「得意・不得意がよくわかりますね。それでもこれだけ上達するなんて」と、意図的に運動神経を高める遊びに関心を持つとともに、「保育所にある道具だけで、これだけ運動させられるんですね。」「この遊びなら自分たちでも指導できそうです」「マネして、下のクラスで実施してみたい」など、出張指導の機会以外にも、実施しようと話していた。

○ 事業の課題

4・5歳児対象のプログラムを提供しているが、1・2・3歳児対象にも指導をしてほしいという需要が出てきた。各年齢の発育・発達段階に応じた活動と安全管理体制を整備していく必要がある。

また、より多様な動きを身に付けてもらうためにも、まだ取り上げていない【遊んで身に付く36の基本的な動き】を取り入れた運動遊びのプログラム開発をしていく必要がある。

むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

サトウキビ畑の手入れをしよう

事業名	サトウキビ畑の手入れをしよう		
実施日	平成29年6月3日(土)～4日(日)		
募集対象	小学4～6年生	募集人数	30名程度
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家		
事業目的	室戸ならではの体験にチャレンジすることで、参加者が自然にふれ、自分の可能性を探る。また、参加者同士のふれあいを深められる機会を提供する。		
活動内容 と 成果	<p>3月に植えたサトウキビの育成を確認し、畑の手入れを行った。前年度の参加者14名のうち、残念ながら1名の欠席があったが、今回からの新規の参加者8名が加わって事業を実施した。</p> <p>畑の手入れは単調な草引きの作業となることから、二日に分けて行うことで、参加者の負担が大きくなるように配慮した。120株ほどを植えたが、発芽、育成したものは20株ほどであり、自然の厳しさを実感することとなった。自然の家職員から、「買ってくる種を育てる場合は、とても発芽率が高い。実はそのために品種改良がされている。今回のサトウキビは自然のものなので発芽率は自然の条件に任せるしかない」という話を聞いた参加者はうなずきながら納得していた。</p> <p>今回は併せて、「エビ捕り」をおこなった。ペットボトルを利用して仕掛けをつくり、元川に沈めた。これは、翌日早朝に回収することとなる。仕掛けの設置と簡単な川遊びを行って一日目は終了した。</p> <p>二日目は仕掛けの回収からスタートした。自然の家から4km歩いて前日の仕掛けを確認しに行った。早朝からの活動となったが、参加者は元気よく歩くことができた。ほぼすべての仕掛けに川エビ入っていた。仕掛けにはエサを仕掛けなかったが、エビが取れたことに驚いていた様子であった。時間の関係で、捕獲したエビを食べるまでには至らなかったことは残念であった。</p> <p>次回は11月下旬に収穫を行う予定である。参加者同士、再会を約束しあって、今回の事業は終了した。</p>		

参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	21	0	21	42



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

むろとでチャレンジ③「鯨舟競漕にチャレンジ」

事業名	むろとでチャレンジ③「鯨舟競漕にチャレンジ」		
実施日	平成29年7月15日(土)～17日(月)		
募集対象	小学4～6年生	募集人数	34人
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家		
事業目的	室戸ならではの体験にチャレンジすることで、参加者が自然にふれ、自分の可能性を探る。また、参加者同士のふれあいを深められる機会を提供する。鯨舟やシーカヤックで海へ漕ぎ出すことで、協力の大切さと挑戦することの楽しさを感じる機会とする。		
活動内容 と 成果	<p>1日目 大会の会場となる室戸岬新港に集合し、3チームに分かれて鯨舟競漕の練習を行った。1時間余りの練習だったが、掛け声を工夫したり、漕ぎ方を話し合ったりしながら、どのチームも優勝を目指す作戦を立てられていた。夜は、大会本番に舟に乗せる旗を作成した。チームごとに思い思いのメッセージを書き込み、本番に向けて意識を高められた。</p> <p>2日目、晴天の下、鯨舟競漕大会が開催された。熱中症対策として日陰で待機したり、水分補給を随時したりしていたが、汗が止まらず出番までに疲労が蓄積される状態であった。しかしながら、たくさんの保護者と地元の方々との声援を受け、3チームとも意気揚々と出漕することができた。結果は1位・2位・4位と、どのチームも作戦通りのレースを展開することができた。出漕後は閉会式までの時間を利用して、釣り体験を行う予定であったが、港の気温が35度を超えた上に無風であったため、熱中症の危険性を考慮して中止とし、早めに自然の家に帰り体を休めることにした。休憩後は、チリメンモンスター探しを1時間ほど行った。海の中の生物の多様性を実感しながら、自分のお気に入りのちりめんモンスターを台紙にがって標本を作製した。</p> <p>3日目は、参加者が楽しみにしていたシーカヤックを実施した。4年生の参加者が多く、カヤックの運搬や操船に手こずる場面もあったが、前日の競漕とは違い競い合う必要がないため、バディで協力しながら楽しくカヤックの活動を行うことができた。</p> <p>とにかく晴天に恵まれた三日間で、暑さでぐったりだったが、最終日バスに乗り込む子供たちの真っ黒に日焼けした笑顔には、まだまだ元気が残っているようだった。また、昨年に続いて地元で開催された土佐鯨舟競漕大会に出場することができた上に、今年は子どもの部で優勝することもでき喜びも大きかった。しかしながら、熱中症が心配される時期に不掛けの少ない海での活動を三日間続けることは、参加者の安全を管理する上で不安要素が大きい。特に2日目の大会当日は、こちらの運営ではないため、タイムスケジュールを自由に変えることができず、子どもたちの体調管理に苦慮した。安全な事業運営のためにも、鯨舟競漕大会の実行委員会とのさらなる連携が重要であると考えている。</p>		

参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	36	0	36	108

※総申込数 38



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

キッズデイ②親子でスノーケリング！

事業名	キッズデイ②親子でスノーケリング！			
実施日	平成29年7月22日(土)～23日(日)			
募集対象	小学校1～3年生とその保護者	募集人数	10家族30人程度	
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家			
事業目的	海の生物を自分の目で観察することができる「スノーケリング」を通して、海辺の生き物や環境への関心を高めたり、家族間のふれあいを深めたりできる機会を提供することを目的とする。			
活動内容と成果	<p>1日目 海浜活動センターでスノーケリングの概略や道具の使い方を説明したのち、水槽にてマスククリア・スノーケリングクリアを練習した。そのあと、坂本海岸で水慣れ体験とスノーケリングを実施した。</p> <p>2日目 新港北で活動を実施。水槽に生き物を採って観察したり、触れ合ったりして海に親しむことができた。</p> <p>82組209名の申し込みがあり、人気のある企画となった。海に入るというリスクのある活動を、安全に実施できるという安心があってこそ、このような応募になったと思われる。多くの応募があったため、募集締め切りすると同時に、追加事業を開催し、落選者を対象に8月に再度募集することとなった。</p> <p>株式会社タバタ様に協賛いただき、スノーケルマスクの廉価提供と販促グッズ(防水カプセル)の提供を受けた。親子でスノーケリングのグッズが揃ったことで、家族でウニに出かける機会が増えることが期待できる。</p> <p>また、CNACから提供いただいたテキスト「親子海遊び安全講座」を参加者に配布することで、地震での安全管理についても啓発することができた。。</p>			
参加者数	宿泊者数(A:実人数)	日帰り参加者数(B:実人数)	参加者数(A+B)	総参加者数(稼働数)
	22	0	22	44



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

キッズデイ③④夏を楽しもう！

事業名	キッズデイ③④夏を楽しもう			
実施日	平成29年8月12日(土)～13日(日) 平成29年8月13日(日)～14日(月)			
募集対象	小学校4～6年生とその保護者	募集人数	各10家族程度	
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家			
事業目的	<p>普段体験することが出来ない山と海の活動を通して、室戸の自然環境や様々な生き物への関心を高めたり、家族間の会話やふれあいの機会を提供することを目的とする。</p>			
活動内容 と 成果	<p>1日目 国立室戸青少年自然の家にて集合し、敷地内でのオリエンテーリングを実施した。夜はプログラムを実施せずに各家族で自由時間を過ごしてもらった。</p> <p>2日目 海の駅「とろむ」にてシーカヤックの活動を実施した。カヤックを家族の力を合わせて漕いだり、艇の上から箱メガネを使って海の生き物を観察して海に親しむことができた。</p> <p>2事業合わせて12組36名の申し込みがあった。 お盆の時期ではあったが、普段の生活では体験できない山と海のプログラムを体験することができ好評であった。 各日程とも初日の山のプログラムでは家族単位での行動が見られたが、夕食以降では他家族との交流もみられた。2日目には、子供たちが一緒に行動する姿が見られ、それに追従する形ではあったが親通しでの会話や家族同士でのふれあいも多く見られるようになっていた。</p> <p>今回、家族間での会話やふれあいの場の提供を主の目的としていた。その目的は十分達成することができ、さらに他家族との交流の場となったことは大きな成果であったと考えられる。</p>			
参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	34	0	34	68



むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

キッズデイ④「ちょっと早めのクリスマス」

事業名	キッズデイ④「ちょっと早めのクリスマス」			
実施日	平成29年12月16日(土)～17日(日)			
募集対象	小学1・2年生とその保護者・家族	募集人数	約30人	
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家			
事業目的	<p>自然の材料を使う創作活動や、参加者が日常生活から離れた場所で自然散策をすることで自然への関心を高めること、また、親子が分かれて創作活動を行うことでお互いの作品を認め合ったり、夜ゆったりと過ごしたりして、親子の絆を深めることを目的とする。</p>			
活動内容 と 成果	<p>一日目 開会式、オリエンテーションの後、所内を散策しながら翌日のリースの材料となるヒイラギ等の葉や木の実を採集した。同時に子供たちの大好きな草スキー、おもしろ自転車の施設を開放し、親子で楽しく遊んでもらった。午後3時45分から5時15分までは、テダマツの松かさを使ったミニクリスマスツリー作りを行った。松かさを好みの色に着色し、ビーズやモール、ヤシャブシの実などを使ってツリーを製作した。後片付けを含めて1時間30分の活動であったが参加者は、休憩も取らずに作品作りをしていた。時間内に仕上げるができなかった参加者は、夕食後も作品作りをしていた。親子で楽しく会話をしながら絆を深める時間になった容体。夜は自由時間とし、ゆっくりと第1ロッジで過ごしてもらった。</p> <p>二日目 起床後、朝のつどいに本館へ移動する時間帯で退所点検を行った。朝食後に時間の余裕ができ、リースづくりの時間を15分繰り上げて実施することができた。 第1集会室で講師の土壁美由紀氏を紹介し、リースづくりを開始した。家族間のコミュニケーションを重視してもらうために、1家族1作品とした。土壁氏の指導のもとカズラにヒノキの端材を加工したりリボンや松かさ、ブライトボール等のオーナメントをカズラに取り付けていった。「ここにボールを取り付けたら?」「こっちがいい。」というように親子で楽しく作品を制作していった。できた作品を写真撮影する家族も見られた。11時30分から一斉に後片付けを行った。参加者全員が協力して行ったため、スムーズに終わることができた。 2日間工作をメインに活動したが、あんけーとの結果からも満足度の高い事業だったようだ。親子でのコミュニケーションの機会を大切に次年度も事業を計画していきたい。</p>			
参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	21	0	21	42

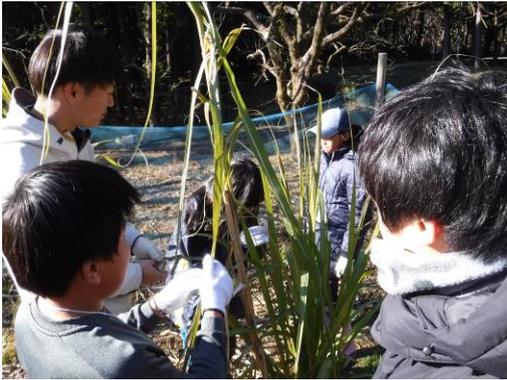


むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業報告

サトウキビを収穫しよう

事業名	サトウキビを収穫しよう		
実施日	平成29年12月27日(水)～28日(木)		
募集対象	これまでの参加者	募集人数	—
主な活動場所	国立室戸青少年自然の家		
事業目的	室戸ならではの体験にチャレンジすることで、参加者が自然にふれ、自分の可能性を探る。また、参加者同士のふれあいを深められる機会を提供する。		
活動内容 と 成果	<p>3月の植え付け、6月の手入れを経て、まとめとなる収穫を行った。計画当初は11月下旬の実施を予定していたが、他事業との兼ね合いから、冬休み中の実施となった。</p> <p>6月までに発芽した株はその後順調に生育し、子供の背丈を超えるまでになった。「ざわわ」と密集して茂らなかったのは大変残念であったが、参加者が一本ずつ刈り取るだけの数を確保できたことは幸いであった。</p> <p>刈り取ったサトウキビはその場で齧って甘みを噛みしめたのち、家族へのお土産に持ち帰ることになった。本事業のアドバイザーを務めていただいた篤農家の竹石虎男氏から、黒砂糖のプレゼントがあり、参加者は大喜びであった。自分の畑のサトウキビを煮詰めて製品化したもので大変貴重な品物を頂戴した。</p> <p>一面に広がるサトウキビ畑とならなかったことで、参加者のアンケート評価が懸念されたが、「サトウキビのことがいっぱい勉強できた」「収穫がたのしかった」との意見が多数あり、満足とも94.7%と圧倒的な高評価であった。サトウキビの生育が思わしくなかったことについては、様々な要因が考えられるが、次年度の実施に向けて検証を進めていきたい。</p>		

参加者数	宿泊者数 (A:実人数)	日帰り参加者数 (B:実人数)	参加者数 (A+B)	総参加者数 (稼働数)
	17	2	19	36



管理運営報告

1. 職員の主な研修・講習等

- 「新任職員研修」 平成 29 年 4 月 1 日～6 月 30 日
(新規採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象/2 名参加)
 - ・ 所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明、実践を重視した基礎的研修

- 「指導系職員研修(海の活動)」 平成 29 年 4 月 12 日(海の活動指導職員対象/8 名参加)
 - ・ 海の活動での一人ひとりの役割と施設及び備品の使用方法を実際に体験して学ぶ。

- 「救急救命・AED講習会」 平成 29 年 4 月 12 日実施(18 名参加)
 - ・ 室戸市消防署職員による講義及び実践練習

- 「避難訓練(海の活動時)」 平成 29 年 5 月 24 日(16 名参加)
 - ・ 利用団体の中学校と合同で実施。海の活動時に地震が発生したことを想定し、安全な場所に避難するのに要した時間を計測。より早く避難するための方法等を検証。

- 「リスクマネジメント研修」 平成 29 年 7 月 19 日(19 名参加)
 - ・ リスクマネージャーの職員をファシリテーターに、利用者対応の際に直面する状況を具体的に想定し、職員としての対応方法を検討。

- 「宿直時を想定した防災訓練」 平成 29 年 9 月 20 日(13 名参加)
 - ・ 夜間に発生した想定した大地震、火災発生時における宿直者のとるべき行動について、総合受信盤の取扱方法、警備業者との連携方法等について訓練を通して検証。

- 「スタンドアップパドル指導研修」 平成 29 年 11 月 15 日(10 名参加)
 - ・ 次年度に導入予定の活動プログラムであるスタンドアップパドルボードの操作方法について、外部講師の指導のもとに学ぶとともに、その指導方法を検証する。

- 「情報公開制度・個人情報保護制度に係る研修」 平成 30 年 1 月 17 日(17 名参加)
 - ・ 四国行政評価支局の職員を講師に招き、独立行政法人に係る制度の内容、情報保有機関として守るべき事項等について理解を深める。

2. 平成29年度国立室戸青少年自然の家運営協議会

【第1回】

日 時 平成29年6月19日(月) 14時～16時
場 所 国立室戸青少年自然の家 第1集会室
出 席 者 阿部淳子、刈谷好孝(正木代理)、小柳和代(大内代理)、
(敬称略) 酒井哲雄、清水幸一、杉村高晴、田村千賀、時久恵子(上村代理)、
藤田真一、森克仁、依光香代子、各委員 計11名
(欠席者:伊藤正孝、小松幹侍、芝暢彦、野島利和、松岡和也、脇口宏 の各委員)

【第2回】

日 時 平成30年2月28日(水) 14時～16時
場 所 高知県立ふくし交流プラザ(高知市朝倉戊375-1)
出 席 者 阿部淳子、小松幹侍、小柳和代(大内代理)、酒井哲雄、芝暢彦、清水幸一、
(敬称略) 杉村高晴、田村千賀、野島利和、藤田真一、松岡和也、依光香代子
の各委員 計12名
(欠席者:伊藤正孝、刈谷好孝、時久恵子、森克仁、脇口宏 の各委員)

3. 栄典関係

当施設研修指導員の森田義盛氏が、当施設の研修指導員として10年の長きにわたり草刈り作業等施設整備、並びに施設開放事業等における竹細工を中心としたクラフト指導等を通して青少年の健全育成に尽力され、社会教育の振興に多大な貢献をされた功績により、平成29年11月7日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受けられた。

●森田義盛氏 略歴

平成19年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員

平成22年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家研修指導員

●当施設における主な活動

草刈り作業等の施設整備、竹細工を中心としたクラフト指導

4. 施設整備（主なもの）

○研修棟第1集会室マルチエアコン取替工事

当所の研修棟、第1集会室の空調設備（エアコン）は天井埋め込み型であり、室内機が6台設置されているものである。平成29年2月に全台稼働しなくなったため業者に確認してもらったところ、基盤部品等が製造中止であり修理復旧が不可能であることが分かった。（当エアコンは平成6年3月に設置。設置後23年経過）

利用者の研修活動等に支障を生じない環境を維持するために必要なため取替工事を行うこととした。

○つどいの広間照明器具落下防止対策工事

平成28年度に本部より照明落下防止の措置及びLEDへの交換を行うとの通知があり、本部予算にて今年度に工事を行った。

○なかよし広間網戸新設工事

以前から網戸がなかったため、空気の入替えの際に虫が入る不便が生じていた。利用者の快適性の向上を図るため工事を行った。

○躯体改修工事

建設後40年以上が経過し、建物の外壁や屋上のひび割れ等劣化が著しい。柱のひび割れや雨漏りを放置するとひび割れや剥離が広がるだけでなく、内部の鉄筋にも影響を与え、爆裂箇所の増につながる。建物の長寿命化、利用者の安全を確保するために改修を行うこととなった。

○海浜活動センター内・外装改修工事

建設後25年が経過し、建物内・外壁塗装の剥離やプレイホール床、玄関部の劣化が著しい。また雨漏りが発生しており、雨漏り箇所には苔が発生している。建物の延命や維持管理費の軽減を図ると共に、外観の美化や利用者の利便性向上を図るため改修を行うこととなった。

5. 設備備品（主なもの）

○電話交換機設備更新工事

耐用年数は6年の電話交換機が設置後14年経過し、落雷の際故障することがあるが、故障箇所によっては交換する部品の製造終了のために復旧不可能になる。また製造中の部品に関しても受注製造品が多く、納期が長く（最長3か月）、復旧に時間を要する場合がある。

平成29年度施設整備・各所修繕要望書を本部に提出した後、本件が採択された。

○2トントラック更新

車検のため整備工場に見積もりを依頼したところ、腐食が激しく車検20万、修理代20万と見積もられた。また、一方で、できれば安全の観点から車検を通すことは望ましくない旨の判断が添えられた。

実際に海浜エリアで使用するため腐食が激しく、昨年度には生徒が腐食部分にふれてケガをする

ということも生じている。また、巻き込み防止柵や荷台のあおりの脱落の心配もあり、安全上、更新をすることとなった。

財源は寄付金をトラック購入費用に充てた。

南海トラフ巨大地震発生を想定した地震・津波避難訓練



平成30年度導入されるSUP (スタンドアップパドルサーフィン) の職員研修



広報活動

広報活動として様々なイベントにブースを出展し、活動体験と併せて施設のPRを行った。

実施日	イベント名	会場	ブースでの体験者数
5月4日～5日	ジオパークセンター 流木クラフト指導	室戸ジオパークセンター	194
6月10日～11日	瀬戸内 DAYOUT	大鷲島	207
6月16日	第3回むろと青空マルシェ	海の駅とろむ	160
8月5日～6日、 19日～20日、 26日～27日	わくわく発見！夏休み in 室戸ユネスコ世界ジオパーク	室戸ジオパークセンター	293
10月14日～15日	outdoorpark in 讃岐まんのう クラフトブース出展	讃岐まんのう公園	76
11月3日	高知大学物部キャンパス公開イベント	高知大学物部キャンパス	1173
11月5日	むろとまるごと産業祭り	室戸市保健福祉センターやすらぎ	120
11月11日	甫喜ヶ峰フェスティバル 2017	甫喜ヶ峰森林公園	51
11月11日～12日	淡路うずしおフェスティバル 2017	国立淡路青少年交流の家	274
11月19日	ヤ・シィの秋まつり	ヤ・シィパーク	162
11月25日～26日	えひめ生涯学習“夢”まつり	県民文化会館(ひめぎんホール)	388
11月26日	生物多様性イベントふるさとの命をつなぐ	須崎市民会館	120
1月21日	第8回土佐のおさかな祭り	高知市中央公園	1348
1月28日	第43回室戸市春の観光びらき	室戸岬観光案内所	39
2月24日	室戸ジオパーク広報イベント	イオンモール高知	124
2月25日	むろと2000本桜イベント	室戸市広域公園	991

【高知イオンでクラフト体験やってます】

本日、高知イオンショッピングセンターで流木を使ったクラフト体験をやっていきます。磨けば磨くほど、良いキーホルダーができますよ。16時までやっていきます。

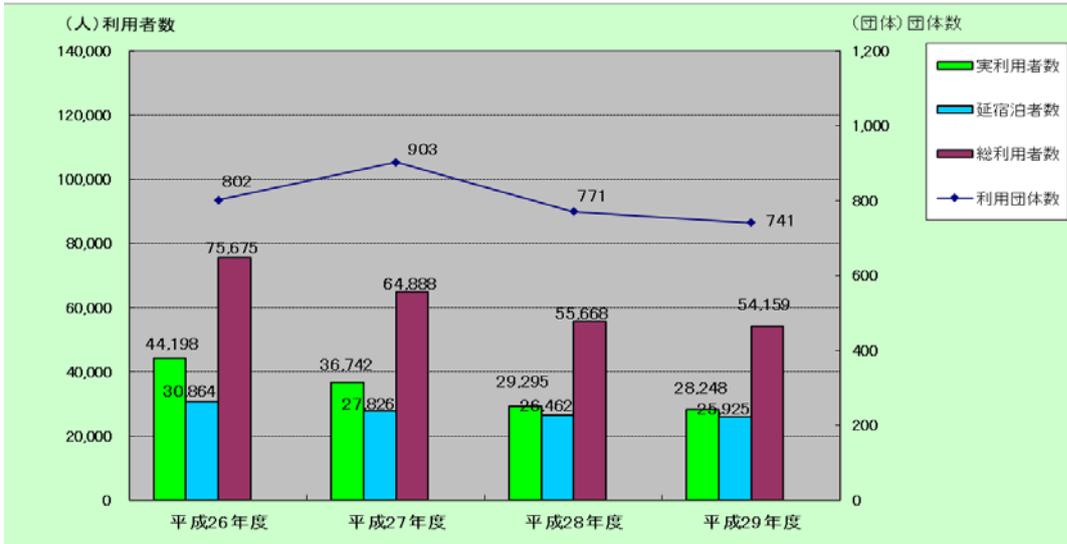


FaceBook より

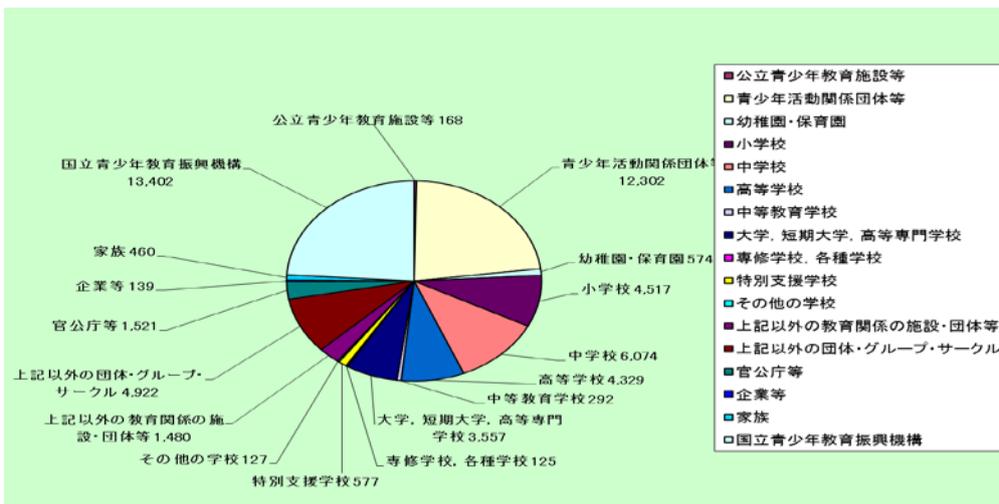
平成29年度も、可能な限り様々なイベントにブースを出展した。新たなイベントにも出展したが、体験活動の普及という意味でも、精力的にブース出展による施設利用PRを実施していきたい。

利用実績

【年度別利用状況】



【団体種別稼働数】



【月別稼働数】

